

# 横瀬古墳とヤマト王権のつながり（前編）

## 1. 高句麗・倭国戦争

中華人民共和国吉林省集安市に高さ約6.3メートル・幅約1.5メートルの角柱状の石碑があります。『広開土王碑』と呼ばれています。『魏志倭人伝』以来、ヤマト王権

成立期の記録は中国の文献にも無く、『空白の4世紀』と呼ばれてい

ますが、広開土王碑によく当時の倭国についての記録が再び現れるのです。

広開土王碑とは、高句麗の第19代



図1 朝鮮半島における倭軍進路推定図

の王である好太王（広開土王）の業績を称えた石碑ですが、この碑文が当時の東アジアの国際情勢を伝える貴重な資料となっています。そこに倭国に関する以下の内容が書かれているのです。

・396年 好太王は兵を率いて百済の城々を占領。首都を包囲し、百済は降伏して高句麗への服従を誓った。好太王は百済王子と貴族子弟を人質にし、多数の奴隷を連れて

首都へ引き返した。

・399年 百済は以前の盟約を破つて倭と同盟を結んだ。好太王は平壤へ侵攻した。その時、新羅王の使者の謁見を受けた。使者は倭軍が国境を越え新羅と戦闘を行っている窮状を訴え、高句麗に臣従を誓った。好太王はその忠誠心を快く受け入れ、救援を許した。

・400年 高句麗王は新羅を助けるために5万の兵を送った。新羅の首都を包囲していた倭軍は高句麗軍が着くと撤退を始めた。高句麗軍は倭軍を追って任那加羅にある從拔城を攻めた。城の兵民は高句麗に降伏し、攻め落とした。倭軍は塩城を囲んだが、兵民の大半は倭への降伏を拒んだ。倭と同盟を結ぶ安羅軍は新羅城を攻め落とした。

・404年 倭軍がいきなり帶方郡国境を超えて侵攻してきた。高句麗王は平壤から兵を率いて進み、倭軍を打ち破った。

・479年 4年前に百済が高句麗によって壊滅させられた報復として、水軍で攻めてきて高句麗を討つた。

『日本書紀』『古事記』でも、上記

の件に関連するのではないかという記述が見られます。神功皇后が新羅出兵を行い、朝鮮半島の広い地域を服属下においたとされる『三韓征伐』の記述です。

各文献資料の詳細については、いろいろな解釈があるため今回は触れませんが、いづれにしても4世紀末から5世紀にかけては東アジアの国際情勢に倭国が大きく関与していたようです。どうやら、4世紀末から5世紀にかけて朝鮮半島における軍事支配権をめぐり、倭国は高句麗と戦争をしていたようです。そして、新羅は高句麗に従属し、百済は倭国と同盟を結んでいたことも分かります。高句麗の朝鮮半島南下政策に及び東アジアが緊迫した状況がうかがえます。

## 2. 4世紀半ば～5世紀の中国

この頃の東アジアの国際情勢はどうだったのでしょうか。中国まで広げて目を向けてみます。

316年に西晋が滅びると、中国華北では5つの民族による16の国が分立興亡します。これを『五胡十六国時代』と言います。316年に漢（後の前趙）による侵攻を受けた西晋は、第4代愍帝が捕らえられたことで完全に滅亡（永嘉の乱）、西晋の皇族の生き残りであった司馬睿